

梯 きざはし

2012.10
Vol.

16

Contents

脳卒中センター開設	2	出産体験記	11
当院における呼吸器内視鏡検査	4	地域医療連携交流会開催	12
那覇市立病院DMAT出動	6	メディカルレシピ／ハロウィン企画	
部署紹介／経営企画室 企画グループ	8	炊飯器で作るパンプキンケーキ	14
病棟紹介／2階北病棟	9	ふれあいポスト	14
ホームページがリニューアル	10	登録医紹介	15
コラボレーションPROJECT始動	10		

脳卒中センター開設

脳卒中センター長・脳神経外科部長
とみやま なおき
豊見山 直樹



848名(8.5%)

この数字は、平成21年に沖縄県で死亡した9923名のうち脳血管障害で死亡した方の総数とその割合です。

1970年代まで日本の死亡原因の第一位を占めていた脳卒中ですが、治療法の改善、発症予防の取り組みにより、徐々に死亡率が減少しています。平成21年度の死亡統計では、悪性新

生物(悪性腫瘍^{II}が^Iん)の26.6%、心疾患(心臓病)の14.5%、肺炎の9.5%に次いで第四位となっています。人口10万人あたりの死者数も1975年のおよそ150名から現在では67名と激減しています。

沖縄県内ではこの20年総数・死亡率ともにほぼ一定のまま推移しています。

死亡に至ることは少なくなつたとはいえ、厚生労働省の調査では脳血管障害の人口10万人あたりの入院受療率はおよそ170人と最多であり、寝たきりになる原因としてもその36.6%を占め、他の疾患を圧倒しています。これらのことから、日本の国民病であることには1970年代以前と変わりません。

救急を担う当院としての役割

を考えるとときに、突発する脳卒中に対して、受療早期から高度で均一な治療と濃密なりハビリテーションが提供できること、回復期及び維持期の施設との連携を拡充し、患者さんの社会復帰に貢献していくことは責務と考え、数年前から中期事業計画の中に脳卒中センターの設立が盛り込まれていました。

視察・考案等を重ね 平成24年8月に 脳卒中センターが稼働

脳卒中センターと名称はセンターとなつていますが、ビルもなければ、部屋も看板もありません。データ管理用のコンピュータや医師作業補助者などの環境は今一つ整っていませんが、産声を上げたばかりのセン

ターはそこに属する者の熱意と使命感一筋で走っております。当センターは地域住民に24時間の安心を提供、地域完結型医療の一端として、治療の高度化・均てん化をはかり、院内外のスタッフの教育とともに、地域への啓蒙活動を通して、再発予防に努めることをその設立目的としております。

t*PAなどの一刻を争う治療が行なえるよう、24時間医師が病院に常駐する体制となりました。現在、当院の脳卒中センターは脳神経外科医のみの医師構成になっております。少ない人数で通常の診療業務をこなしながら脳卒中への24時間対応はかなりハードです。ただ、沖縄の脳卒中医療の10年後を考えると、今センターを立ち上げ、人材を育成しなければ、老老介護どころか老老医療の道しか残つ

* t-PA 治療とは

脳の血管を詰らせた血栓を溶解する薬剤(t-PA)を点滴投与し、血流を再開させる治療方法のこと

ていないのではないかと強い危機感を抱き、センター医師は邁進しております。それを支えてくれるのが看護部、リハビリテーション室、放射線科、救急をはじめとする各部門・部署の手厚い協力・連携です。

未来に向けて

当院は幸い、脳神経外科統括部長の百次仁は県内唯一の血管内治療指導医であることに加え、県内唯一の教育認定機関の機能を有しています。さらに石川智司、松山美智子をはじめ3名が血管吻合術、内膜剥離等の直接血管にメスを入れる手術を行っており、血管障害治療に様々なオプションを選択できる施設になっています。これを後押しするのが、金城典人等の若い医師たちであり、日々研鑽に取り組んでおります。前述の松山は若手医師の先鋒として、沖縄県で初めて女性脳神経外科専門医を取得しました。私も含め、これらの脳神経外科医は副院長の島袋洋のもとに集まり教

育を受けてきました。情熱を注いで後輩を育てるといふ土壌が少しづつ醸成されてきています。もちろん、外科に偏った脳卒中センターは考えておらず、内科のマインドを持って診療に従事、希望があればカテーテルを用いた検査、血管内治療も行う特徴のある脳卒中内科医とそれを目指す者も求めています。内科と外科がそろって初めて左右の翼が開き、脳卒中センターとして飛び立てる日が来ると信じております。

生まれて間もない脳卒中センターですが、皆様の温かい応援とご指導ご鞭撻がセンターと、そこに働く者に知恵と勇気を与えてくださるものと思います。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

The next one step



脳卒中って？

脳卒中は、脳の血管が詰まったり、破れたりして、その先の細胞に栄養が届かなくなり、細胞が死んでしまう病気です。

細胞が死んでしまうと、急に倒れて意識がなくなったり、身体の麻痺が起きたり、ろれつが回らなくなったりする発作が突然起こります。

早期に治療をしないと病気が進行して症状がひどくなったり、再発作が起きて命を失う可能性もあります。リハビリも早く始めないと、合併症が出て筋肉がこわばったり、症状が悪いままで固まってしまいます。

治療やリハビリの効果を高めるために、早いうちに適切な医療を受けることが重要です。

出典：厚生労働省HP



当院における呼吸器内視鏡検査



今までの気管支カメラでの検査に加え
ガイドシースを用いた気管支腔内超音波診断法と
超音波気管支鏡ガイド下針生検を行っています。

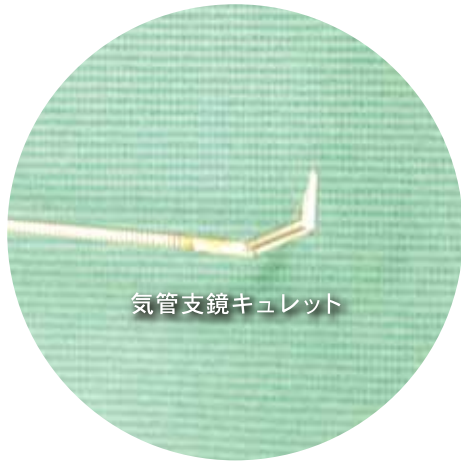


まつの かずひこ
呼吸器内科医 松野 和彦

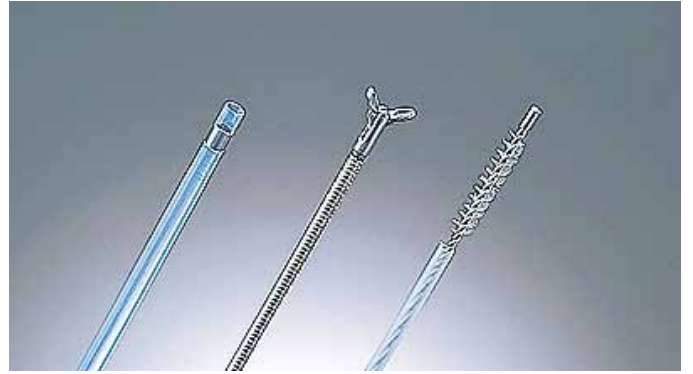
平成16年に当院で研修を行って以来、8年ぶりに沖縄に戻って来ました。

みなさま、こんにちは。
本年4月より那覇市立病院に
赴任しました、松野です。
昨年まで日光(だけ?)で有名
な栃木県の、獨協医科大学病院
に在籍し、呼吸器内視鏡セン
ターの検査番長(検査総責任の
下で3~7年目医師の指導を
する立場)として、年間150例
程度の検査を担当していました。

いままでの経験をもとに、当
院での呼吸器内視鏡検査をま
ます充実したものにしてけれ
よう全力で取り組んで行きたい
と思います。
当院では、今までの気管支カ
メラ(外径7mm程度)での検査
に加え、本年度より、ガイドシー
スを用いた気管支腔内超音波診
断法と超音波気管支鏡ガイド下



気管支鏡キュレット



左からガイドシース、生検鉗子、ブラシ

更に正確な診断が可能になりました。

針生検を行っています。

ガイドシースを用いた気管支腔内超音波診断法では、先端から超音波が出るコードに透明な筒を被せたものを、気管支カメラを使って、目的とする病気の場所まで、気管の中を進めます。

そこで超音波を出し、コードの先端が病気のある場所にあることを確認します。透明な筒を病気のある場所に残すことによって、気管の迷路をさまようことなく、病気のある場所で、確実に、繰り返し検査を行うことが可能です。この検査法を行うことにより、通常のレントゲン写真は確認できない病気の診断を行うことも可能になりました。

超音波気管支鏡ガイド下針生検は、先端から超音波の出る気管支カメラを用いて、気管の壁の裏側にあるリンパ節に針を刺し、リンパ節の一部を吸い取る検査です。この検査では超音波を使うことで気管の外側のリンパ節を、画像で確認しながら針

を刺すことが可能です。今まで検査を行うことができなかった

リンパ節を検査することで、診断困難であった病気（肺癌、リンパ腫、結核、サルコイドーシス等）を診断し、早期の治療を

行えるようになりました。

これらの、新しい検査環境でみなさまの健康に役立てる様、職員一同、今まで以上に努力を重ねていきたいと思えます。



呼吸器内科医と内視鏡室スタッフ



自衛隊ヘリコプター
CH-47機



◀CH-47機 右前方は
壁やドアのない作り。
そのまま飛行



十那覇市立病院DMAT出動!!

DMAT隊員 照屋努・黒崎浩史
てるや くとむ くらさきひろし

9月9日、10万人が集ま
りオスプレイ反対集会が行
われている中、那覇市立病
院DMATは初の出勤態勢
を整え、自衛隊那覇基地で
搭乗準備を行っていました。

当院のチームは、救急科医
師、看護師2名、業務調整
員3名の総勢6名体制です。

DMATとは

Disaster Medical
Assistance Teamの略称で、

「災害急性期に活動できる機動
性を持ち、トレーニングを受けた
医療チーム」と定義されている。

トリアージとは

災害医療において、最善の救命
効果を得るため、多数の傷病者
を重症度と緊急性によって分別
し、治療の優先度を決定する。

初出動は、沖縄県総合防災訓
練へ参加となりました。

訓練概要

9月9日9時30分、沖縄
本島近海（那覇市北北東
150キロ）を震源とする
地震発生。本島北部で深
度6強を観測。これにより
「大津波」予報が発表され、
9時50分頃、本島に津波
襲来。名護市を中心に地
震・津波による被害が発
生し、建物の倒壊、火災の
発生、多数の傷病者がいる
とされた。道路の通行不能
や電気・ガス・水道・電
話などのライフラインに
甚大な被害があり、沖縄
県及び名護市は被害状況
の情報収集、災害応急対
策・復旧対策にあたる。

この訓練で当院は、自衛隊那覇
基地に参集し、被害を受けた名護
に自衛隊のヘリコプター（CH-47
通称・チヌーク）で他のDMAT
とともに向かった。名護港沖に停
泊した海上自衛隊の護衛艦「ひゅ
うが」に着艦し、北部地区の傷病
者を「ひゅうが」の艦内で処置を
行い、重傷者は南部地区の病院へ
搬送する訓練内容となりました。

訓練開始!

午後0時40分に那覇空港を離陸
し、わずか20分程で「ひゅうが」
に着艦しました。艦内の医療班と
救護所を立ち上げ、搬送されてく
る傷病者を受入れ準備を行いまし
た。当院のチームは、医師・看護
師は重症及び中等症エリアを担当
することになり、業務調整員は、
救護所本部、トリアージエリア、
外部との通信に別れることになり
ました。チームとして出動したも
の、メンバーはバラバラでの活
動となりました。実際の活動でも、



海上自衛隊との
状況把握

CH-47機内では、イヤークガードを装着

◀ 救護所本部

◀ 手術室を完備しているひゅうが

それぞれ別れて行動するのですが、訓練自体初めてということもあり、不安な気持ちでした。

■重症・中等症エリア

重症エリア及び中等症エリアが離れていることもあり、受け入れの準備が十分に行えず、重症患者用病床を2床、その後中等症エリアを準備している最中に傷病者が搬送されてきました。離れた2箇所のエリア担当となったものの、当面は中等症エリアでの活動とし、医療活動を開始しました。重症となる傷病者が現れ、現場指揮所の指示のもと重症エリアに移動し、治療を続けました。

■通信

ひゅうが内で唯一の外部との通信担当となりました。現場からどのくらいの傷病者が運ばれてくるのかといった、災害対策本部など外部と連絡をとる非常に重要な役目です。通信手段は、衛星携帯電話のため、電波の確保に苦労しました。(衛星のある南向きにアンテナを向け続けなければならない)

■トリアージエリア

他のDMATメンバーと、搬送された多数傷病者のトリアージを

しました。あふれるほどの傷病者を前に、慌てず、落ち着いて行動することの難しさを感じました。また、他のDMATと行動することは貴重な経験となりました。

■救護所本部

救護所のタイムレコードを担当しました。本部には情報が集まるので、どの傷病者を搬送する、あと何名が搬送されてくるなど刻々と変わる状況に対応しなければならぬ本部の重要さが伝わりました。



訓練の感想として、重症及び中等症エリアが離れた場所に設置されていたため、トランシーバー等の無線機の重要性を痛感しました。メンバーが艦内で離れて活動したことも、そう思わせる要因の一つでした。

DMATは、このような訓練に加え、技能維持研修や国が主催する実働訓練を義務付けられています。実際に災害が起こってしまつた場合、迅速に行動し、平時の医療体制と同等の医療体制を供給できるように、私達が派遣されるような災害等が起こらないようにと願いながら、災害医療技術を日々研鑽しております。



◀ 海上自衛隊の護衛艦「ひゅうが」

経営企画室 企画グループ

くろさきひろし
黒崎 浩史



経営企画室企画グループは、地方独立行政法人の移行時、平成20年4月に新設された部署です。それ以前から企画課企画係という部署がありましたが、名称こそ同じですが、相異なる業務内容でした。

経営企画室の名の通り、企画グループは那覇市立病院の経営に関する業務を担います。具体的には次のような業務です。

- ① 理事会、管理会議、運営会議、経営企画会議など病院経営・運営に関すること
- ② 病院の方向性、意思決定のため、経営的指標の収集、分析、マーケティング、企画立案に関すること
- ③ 設立団体である那覇市との調整・連携に関すること
- ④ 広報に関すること

さて今年度、どのようなことに取り組んでいるのかをご紹介します。

今年の3月で当法人の事業単位における1期（4年）が終了しました。この1期の事業内容を設立団体である那覇市に報告し、評価を受けます。あわせて2期に向けた中期計画の策定を行いました。

続いて、診療機能の強化として、脳卒中センターの開設に携わりました。詳しくは巻頭2ページをご参照ください。

広報的な取り組みとして、病院看板を設置しました。病院の屋上部分、モノレールや

環状2号線から見える位置に看板を取り付けています。屋上看板は、夜間でも文字が点灯するタイプにしました。また、10月からホームページのリニューアルを行いました。年内にリニューアルが完了する予定です。生まれ変わったホームページを是非ご覧ください。そして、この広報誌「きざし」もリニューアルしました。表紙全体に写真を配置し、従来の広報誌から大幅なテコ入れを施しています。

（広報誌編集委員一同、リニューアルのご意見・ご感想をお待ちしています）

最後に、一般的に経営の3要素とは、「ヒト・カネ・モノ」といわれています。企画グループでは第4の要素にあたる「情報」を扱う部署と意識しています。

変化する医療情勢、求められる多種多様な医療、進化する医療技術などあらゆる面で情報の重要性を感じられると思います。安定した経営基盤を築き、病院運営を継続していけるよう、院内外にアンテナを張り、病院運営に取り組みたいと思います。



2階北病棟

看護師長 仲地 留利子 なかち るりこ

2北病棟は脳神経外科、歯科口腔外科、皮膚科を主とする混合病棟です。

また、一般外科、整形外科、小児外科、内科の患者さんの入院受け入れもしています。そのため、患者さんの年齢層も幅広く、0歳～100歳の方まであらゆる世代の入院があるのも当病棟の特徴の一つとなっています。このように多くの診療科の入院患者さんを対象とするため、看護技術の習得や看護の楽しさなどが実感できる病棟でもあります。また他職種との連携により、患者さんへの質の高い医療が提供できるように日々「チーム医療」を実践しています。

本院は、急性期病院・地域医療支援病院として地域医療に力を注いでいるため、救急で来院される患者さんも多く、特に脳神経外科は、救急入院、緊急手術で24時間いつでも患者さんを受け入れる準備が必要です。今年8月1日より、「脳卒中センター開設」に伴い、更に病棟はより一層の質の高い医療を目指して「チームワーク」で取り組んでいます。リハビリチームをはじめ、多職種チームとの連携を深め患者さんの早期リハビリ、及び社会復帰へと繋いでいく役割があります。専門性を高めるための勉強会や研修、また他の職種を交えてのカンファレンスなど積極的に行っています。以前より行われている、毎週火曜日8時からのリハビリ回診は他院（大道中央病院、オリブ山病院など）のリハビリスタッフ及び

医療ソーシャルワーカーなどが参加し、院内多職種スタッフなども加わり回診を行い、情報交換や情報提供などを積極的に行っています。

当病棟は、紹介入院や手術目的での入院も多く、地域との連携を図りながら本院の役割を果たしています。

私たち2北スタッフは、これからも一人一人の患者さんに対し、早期回復、早期退院へ向けての援助が出来るように努力していきたいと思っています。



リハビリカンファレンス



◀リハビリ回診

ホームページが

リニューアル

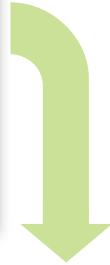
平成24年10月ホームページをリニューアルしました。

情報をより見やすく、分かりやすく、探しやすいサイトとなるようページ構成やレイアウトなどを全面見直ししました。

年内をかけて順次更新・公開してまいります。

今後も、当院のホームページをよろしくお

願いたします。



お知らせ

リニューアルに伴い、ホームページのURLが変更(トップページを除く)になっています。ブックマークされている方など、登録の変更をお願いいたします。

<http://www.nch.naha.okinawa.jp>



沖縄県立芸術大学
美術工芸部絵画専攻



地方独立行政法人
那覇市立病院

コラボレーションPROJECT始動

平成24年9月より沖縄県立芸術大学美術工芸部絵画専攻と協同プロジェクトがスタートしました。このプロジェクトは、病院という医療空間において、芸術作品によるホスピタリティー（思いやり・心からのもてなし）空間の演出・制作をしようと試みるものです。定期的に作品の入れ替えを行い、数年後の100作品を目指します。

展示場所として、中央棟1階廊下（エレベーターホール付近）に2箇所設けております。このプロジェクトを通じ、療養環境の向上にむけて、患者さん、医療従事者、沖縄県立大学の皆さまと関わりを深めていきたいと考えております。

総務課庶務グループ



知花陽(はる)くん



知花佳代(母親)

第二子妊娠が分かった時、とても嬉しかったことを覚えています。長男出産から3年、諦めかけていた時でした。しかし子宮外妊娠の可能性が高く、内診・血液検査を繰り返し…エコーで胎のうが確認できた時には、嬉しさで涙が出ました。

妊娠中は長男の時と同じように『マイコプラズマ肺炎』にかかり、レントゲン撮影や葉の摂取と、不安な妊婦生活の始まりでしたが、あつという間の10ヶ月でした。

12

赤ちゃんはすくすく成長し、予定日の1週間前に少しお腹が痛くなりました。夜中に痛みが強くなり、家族で病院へ。長男も「赤ちゃん来るの?!」と大張りきり。陣痛はどんどん強くなり、明け方には産まれて…いる予定でしたが、陣痛が止まってしまいました。

病室に移動した後、何事もなく出されたご飯を頂き、眠くなった長男にベッドを奪われ、たまに来る痛み「陣痛よ!早く来い!」と祈るような気持ちでした。夕方になりやつと強い陣痛が来て、家族そろって陣痛室へ移動です。夜中からあまり寝ていない長男は陣痛室でもソファでお昼寝。その寝顔を見て、「ママ頑張るぞ〜!」と気合十分です。陣痛はあつという間に強くなり、分娩室へと移るこ

とになりました。長男出産の時は県外の病院で出産(里帰り出産)したため、一人病室で陣痛に耐え、破水した後も自分で実家に電話して両親に来てもらいました。夜中の病院の暗い廊下を、強くなる陣痛に苦しみながら少しずつ陣痛室へと歩いて移動し、分娩台へも歩いて自力で移動しましたが、那覇市立病院は移動

も車いす、いつでも助産師・看護師の方が飛んできてくれる…まるで天国のようなところでした。

分娩台の隣では主人と長男が立ち会ってくれています。これがどんなに心強かったことか。4歳になる長男は小さな体で背伸びをして手を握り、「ママ〜!頑張れ〜!」と応援してくれていました。

3400gの大きな男の子の誕生です。「ママ、お疲れ様〜!」長男はやつと産まれた自分の弟の姿に興味津津でした。「赤ちゃん、見たい、見たい!」そう言つて近くで見た感想は「毛むくじゃらで、血だらけ」でした(笑)

最初は子供が立ち会つて大丈夫かな?と不安でしたが、痛がるママを気遣ったり、さつきまでいかなかった赤ちゃんが、今、目の前で真つ赤になって泣いている姿を見ることで、『お兄ちゃん』として成長の第一歩を踏み出したような気がします。

入院生活は個室に入れず少し残念でしたが、病院スタッフの方々には大変感謝しています。分娩室

では長男の立ち会いに踏み台を準備して下さったり、連日の出産ラッシュ(笑)で皆さん大変な中、一人ひとりに細かい心遣いをいただき、本当にありがとうございます。家族4人の生活が始まりましたが、明るく楽しくのびのびと育てられるように、育児を頑張りたいと思います。子供達が元気いっばい成長してくれることが、今の私達夫婦の願いです。



平成24年度 地域医療連携交流会 開催

平成24年9月13日（木）にホテル日航那覇グランドキャッスルにて地域医療連携交流会が開催されました。今回で4回目を迎える交流会は、地域の病院やクリニック・老健施設、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所など様々な方と当院の職員が一堂に会し、顔の見える関係を築き、交流を深めることを目的としています。来場者数は305名（院外189名、院内116名）と多くの方々にご参加くださいました。

当院の登録医である稲福内科医院・稲福徹也院長、たつや脳神経外科・金城竜也院長より挨拶をいただいた後、沖縄県医師会・宮城信雄会長による乾杯で交流会が開始されました。

その後、当院職員によるパロックスアンサンブル演奏を聴きながら歓談タイム、診療部、看護部紹介にうつりました。中でも放射線科の紹介では、がんの痛みを緩和する治療を行っている足

立医師が直接説明をするなど特色ある紹介となりました。当院の診療体制や対応している疾患についてお話することで、当院のことを知ってもらえたと思います。この交流会をきっかけに地域全体で医療を支えるチーム医療を目指したいと考えます。恒例となった『かりーバンド』のライブでは、当院職員と登録医の先生によるコラボレーションバンドとなり、交流会は大いに盛り上がり閉会となりました。沢山の参加者の皆様から激励を受けとても良い刺激になりました。交流会で得た活力を日々の業務に活かし、より良い医療の提供に努めてまいります。



稲福内科医院
稲福徹也院長



たつや脳神経外科
金城竜也院長



照喜名重一院長の挨拶



宮城信雄沖縄県医師会会長による乾杯で開会しました





新垣医療連携室長



宮城看護部長



屋良副院長



大城副院長



島袋副院長



眼科の今泉医師



麻酔科の伊波医師



放射線科の足立医師と又吉医師



司会担当の町田久巳さんと金城典人医師



宮城沖縄県医師会会長を囲んで



泌尿器科の木村医師



整形外科の
仲宗根医師



演奏でも活躍
歯科の津波古医師



皮膚科の新嘉喜医師



百次医師による
脳神経外科の紹介

会場を盛り上げてくれたカーバンド



沖縄のこどもを守る小児科医



Halloween

ハロウィンにみんなで食べよう!

超簡単

メディカルレシピ

炊飯器で作る

パンプキンケーキ

10月31日はハロウィン。ハロウィンと言えば、パンプキン(かぼちゃ)ですね。

この機会に、子供と一緒にパンプキンケーキを作ってみてはいかがでしょうか?

野菜嫌いの子供も自分で野菜に触れ作ることで
苦手の克服が期待できるかもしれません。

かぼちゃは、カロリーが高く、ビタミン・ミネラルが豊富な栄養価の高い野菜です。

かぼちゃに多く含まれるビタミンには、ビタミンC、E、βカロテン(ビタミンA)などがあります。ビタミンC、Eは体に害のある活性酸素を抑える働きがあり、老化の進行を緩やかにする「若返りのビタミン」と言われています。βカロテン(ビタミンA)は、皮膚や粘膜を保護し、眼の機能を正常に保ち、疲れ眼や夜盲症を改善する効果があります。またかぼちゃには食物繊維も多く、便通を良くする働きがあり女性にとってはうれしい食材です。



材料 かぼちゃ 1/4カット (500g程度)
ホットケーキミックス 150g (1袋)
牛乳 100~150g
卵 1~2個 お好みで砂糖やシナモン

作り方

- ①かぼちゃは種を取り、飾り切り用に5枚程度薄くスライスします。残りは水で全体を濡らし、ラップで包み電子レンジでつぶせる程度まで加熱します。
- ②柔らかくなったら熱いうちに潰します。粗さはお好みで。(皮を入れたくない場合は取ってから潰します)
- ③かぼちゃが冷めたら、卵→牛乳→粉類の順でその都度混ぜます。お好みで砂糖やシナモンを加えてもOK。最後はダマがなくなるまでさっくり混ぜます。
- ④炊飯器に①のスライスしたかぼちゃを並べます。(飾り切りは無くてもOK)
- ⑤生地を炊飯器に入れ、セットしたら通常炊飯開始します。
- ⑥焼上がったら、爪楊枝を中心に刺して何もついてこなければ焼き上がりのサインです。
- ⑦お皿にひっくり返して出来上がりです。
(焼き上がりにはバナナアイス等をトッピングしても美味しいです)



今回はカボチャを使用しましたが、細かく切ったほうれん草やすり下ろした人参等でもOKです。その場合、甘さが足りなく感じるので砂糖を足してみてください

回答

①貴重なご意見ありがとうございました。当院のタクシー乗り場については、現在の場所が適していると考えています。正面玄関は身障者の方の歩行や介護タクシー利用の皆様など多くの方が利用されています。その安全性を確保するため、タクシー乗り場を現在の場所にしていきます。正面玄関でタクシー乗車をご希望の場合、警備員に声をかけていただくと、タクシーを正面玄関前まで回すよう対応しております。ご不便をおかけいたしますが、ご理解をよろしくお願いいたします。

②お葉書にて感謝のお言葉を頂きました。誠にありがとうございます。記念旅行を無事楽しむことができましたことをスタッフ一同嬉しく思います。

ご意見



ふれあいポストとは・・・
病院に対する意見・要望・苦情の投書箱のことです。当院では院内各所に「ふれあいポスト」を設置し病院改善や患者サービス向上に努めています。

登録医紹介 当院と連携してる登録医を紹介しています

当院は病診連携を一層推進するために登録医制を設けております。オープンシステムも備えています。お問い合わせは地域医療連携室まで！ TEL.098-884-5134（直通） FAX.098-886-5502

くばがわ内科クリニック

【診療科】内科（一般、呼吸器、高血圧、各種予防接種等）



院長 久手堅 憲史

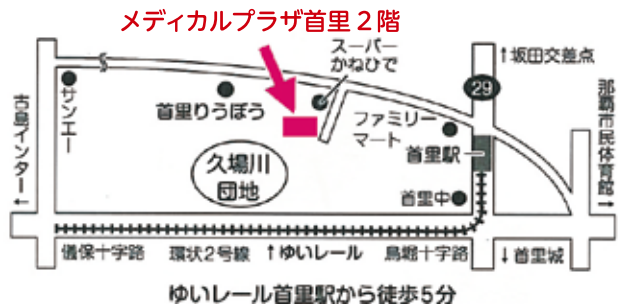
当クリニックの診療には三つの柱があります。**第一**に当クリニック周辺の久場川地区を中心に地域の皆様のかかりつけ医としてお役に立つこと。

第二に咳、ぜんそく、胸の痛み、禁煙外来、睡眠時無呼吸症候群などの呼吸器の病気の専門治療機関としての役割。そして**第三**にCTを用いた肺がん検診です。これまで、沖縄県に多く発生する肺がんは、手遅れになってから発見されることが多く、大きな問題でした。当クリニックでは、肺がんを早期発見できる設備を備え、この状況を打開することを目指しております。

	月	火	水	木	金	土
午前 9:00~12:00	○	○	○	○	○	○
午後 2:00~5:30	○	○	○	/	○	/

【休診】木曜午後、土曜午後、日曜祝日

那覇市首里久場川町 2-96-18
メディカルプラザ首里 2階



☎ 998-8182

ちば こどもクリニック

【診療科】小児科（小児科一般・内科・乳児健診・予防接種・アレルギー疾患・学校検診など）

院長 千葉 敦子



一般小児科を中心にアレルギー疾患、感染症等を診察しています。

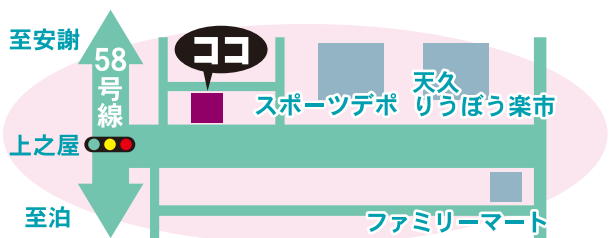
母親の気持ちになって、できるだけわかりやすく丁寧に説明できるように心がけています。

病気を未然に防ぐため、もしくは症状を和らげ重症化しないように、特に**予防接種**に力を入れています。

	月	火	水	木	金	土
午前 8:30~11:30	○	○	/	○	○	○
午後 1:00~4:00	○	○	/	○	○	/

【休診】水曜日、土曜日午後、日曜祝日

那覇市天久 2-1-15 1F



☎ 860-3711

